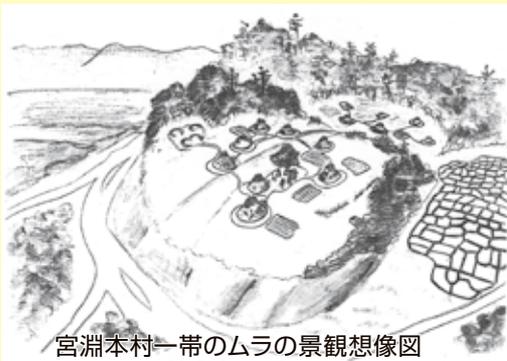


文化育屯町 = 白板 =



白 板 地 区 公 民 館
白板地区地域づくりセンター



宮淵本村一帯のムラの景観想像図



白板地区の誕生

城山の南側から東側のなだらかな傾斜地は城山腰と言われ、石器時代から弥生時代、古墳時代までの遺物・遺跡・墳墓が多数発掘されており、古くから人々が生活していました。この場所に白板地区

は誕生しました。但し、縄文時代の住居跡は発掘されていません。住居跡としては「宮淵本村遺跡の弥生時代竪穴住居 11」と「城山腰遺跡の竪穴式住居跡 2」および「蟻ヶ崎遺跡の奈良・平安時代の竪穴住居」が発掘されています。

地区内で出土された有名な遺物は、宮淵本村遺跡の「銅鐸の紐」、開き松古墳の「眉庇付冑（鉄製）」および猿田彦神社東の畑から「極楽寺と封印された鰐口（馬具）」と「蝶形磬（楽器）」がありますが、いずれも使用人物や由来などくわしいことはわかっていません。

深志城が築城される前の女鳥羽川は現在の大門沢のあたりを流れ、奈良井川の流れは現在とほぼ同じですが、宮淵本村の近くはかなり西側に蛇行していたといわれています。稲作は女鳥羽川の北から奈良井川の東低湿地帯に作られ宮淵本村の集落が発展していきました。宮淵地籍の初見は応永 7 年（1400 年）であり、蟻ヶ崎が出てくるのは天文 21 年（1552 年）、小笠原長時の建仁寺への請願文でした。

江戸時代の白板地区は筑摩郡庄内組に属する蟻ヶ崎村、宮淵村、白板村の 3 村でした。明治 8 年（1875 年）、筑摩県筑摩郡の渚村・白板村・宮淵村・蟻ヶ崎村・桐村が合併し、筑摩県深志村となり、明治 9 年（1876 年）筑摩県が長野県に所属、長野県深志村になり、明治 12 年（1879 年）には郡区町村編成法施行で長野県東筑摩郡深志村となりました。明治 14 年（1881 年）には合併した村が分割し、渚村・白板村・宮淵村・蟻ヶ崎村・桐村に戻りました。

明治 22 年（1889 年）、町村法の施行により、南深志町・北深志町・旧深志村・筑摩村の一部で松本町が発足しました。

明治 40 年（1907 年）の市制施行により松本町が松本市となり、大正 3 年（1914 年）には松本市内を区画整備し、現在の町会となりました。白板地区内の町会は、以前からの蟻ヶ崎・白板・宮淵と 3 村から分割された放光寺・宮淵新橋・宮崎町・城西町・駒町・巴町・折井町が加わりました。その後白板は南・中・宮本に分かれ、宮淵は本村・日向・東に分かれ、蟻ヶ崎は西・東・台に分かれ、西が白板地区となりました。

江戸時代は府中から今町・宮淵・新橋で奈良井川を越え波田・野麦方面へ、北へ下って下平瀬で奈良井川・梓川を越え豊科・大町方面へ、さらに北へ下って熊倉から奈良井川を越え豊科への道があり、宮淵日向には茶屋があったといわれています。川越えは渡しでしたが、正保元年（1644 年）平瀬橋、明暦 1 年（1655 年）熊倉橋、元禄 2 年（1689 年）、新橋が開通しました。但し、熊倉橋は何度も洪水被害に遭い、再び渡しに戻りました。天保 3 年（1834 年）には昭和 13 年まで続いた「犀川通船」が通り、大正 5 年（1916 年）には松本から大町までの信濃鉄道が開設され、北松本駅周辺はじめ白板地区は大変賑わいました。



犀川通船 渚・白板 明治中頃



白板地区 14の町会を紹介しましょう

【町内公民館の活動】

白板 14 町会には、以下に記述する各町会にそれぞれ町内公民館があり、住民に一番近いところでの絆づくりに励んでいます。

各公民館の館長さんたちは、地区公民館や福祉ひろばと連携を取り、出前の講座や研修会など、町内の人たちの福利厚生、健康の維持増進にいろいろな企画を提案し、町会長さんや役員の皆さんの協力を得て実行しております。又、近隣の公民館（町内）が手を取りあつての合同企画で防災訓練なども実施しています。



【新公民館への思い】

白板地区みんなの念願でした地区公民館が、城山の高台から北松本駅近く城西町に新築移転してきました。今までは距離的にも、交通手段にしても不便で、みんなが集みにくい場所でした。規模は多少小さくなりましたが、地区皆さんの活動の中心に位置し、福祉ひろばにも近く徒歩でも通える利用しやすい公民館となりました。「こんなこと、あんなこと」と、いろいろなことを学ぶ生涯学習の場であることはもちろん、「ちょっと寄って話をしたい」「読みたい本があるかしら」などなど……気軽に立ち寄れる、みなさんの溜まり場になればいいですね。

【運動会・文化祭】

かつては単町会での運動会や文化祭が、規模の大小はあるものの盛んに行われていましたが、少子高齢化が進む中、ひとつ減りふたつ減りして現在は運動会が 2 町会、文化祭は 4 町会で実施されるのみとなりました。しかし白板地区 14 町会がひとつになって合同の大運動会を展開して住民の人気を博しています。



●白板南町会



白板南公民館：松本市白板 1 丁目 1-14

戦前の軍需工場の事務所だったと聞いております。

今、町内の抱える問題は、高齢化と水害です。町内の 75 歳以上の方が 40 名近くになります。また大きな川 2 本に挟まれた土地ですから、水害の時に住民の安全のために何が出来るかを考えています。

白板南町会は白板地区の一番南の端にある戸数 87 戸、人口 200 人程の町会ですが、とても気寄りのよい町会です。

白板の名の如く、30～40 年前までは町内の面積の約半分が材木置場でした。その後徐々に減少して、今は 1 軒もありません。町内の名物だった巨大なレンガの煙突もなくなり、今は現在の南区公民館にその面影を残すのみとなりました。

南区公民館は市内で唯一といわれるレンガ造りの建物で



● 白板中町会



白板中公民館：松本市白板 1 丁目 4-23

町会の先輩が長年皆さんの親睦をはかるため灯してくれた明かりを、消さないよう継続したいと思っています。

尚 3 年前より「北部公民館」と提携して、ウォーキングを兼ねた紅葉狩り等も行っています。

白板中町会は 103 戸のまとまりのよい町会です。当町会で自慢できるもののなかに、町会旅行があります。スタートは昭和 42 年で、平成 26 年まで 47 年間途中一回の休みもなく継続されています。

途中町会の負担金の問題等あったようですが、現在では町会からは車中の茶菓子の負担だけで、旅費は全額個人持ちとなっています。



● 白板宮本町会



白板宮本公民館：松本市白板 1 丁目 6-12

伝統行事の道祖神祭りがあります。児童会が主体となり、毎年 1 月に道祖神の前で聖域を竹で作り、尾頭付き・野菜等お供え物を供え、子孫繁栄を祈願する立派な置物を飾りお祭りを催行しています。

白板宮本町会の公民館は、昭和 39 年 9 月に古材を調達し、町内に居住していた大工さんをお願いし新築致しました。

当初は切妻造りでしたが、昭和 54 年 11 月に現在のような建物に改築いたしました。来年は人様でいうところの節目の還暦の築 60 年を迎えます。白板宮本町会 208 戸の主要な行事として伝



● 折井町町会



折井町公民館：松本市大手 1 丁目 4-12

ハロウィン・送別会等使用しています。

13 坪ほどの狭い公民館ですので、子どもの数も増え手狭になりました。広い公民館が欲しいと皆の希望です。

折井町町会はマンションが 3 棟でき、世帯数も 250 戸と増え活気のある町会となりました。折井町公民館は、戦前よりあった建物を譲り受け使用してきました。

毎月のふれあい会は住民の安否確認もあって必ず実施しています。

その他にも大正琴、カラオケ、子ども会が青山様・ぼんぼん・クリスマス会・



● 巴町町会



巴町公民館：松本市大手 1 丁目 7-2

街路樹も道路拡張時に皆で相談し、開花期間の比較的長いハナミズキとヤマボウシを交互に植樹しました。秋の紅葉はすばらしく、道行く人々を和ませてくれています。

町内活動も盛んで、ふれ健・会食・新年会・室内に桜花を飾ってのお花見会・秋の芋煮会等交流を深めています。

松本城より西へ、今町の交差点から北松本駅までが「巴町」です。大先輩の方々から聞いた話では近隣の旧蟻ヶ崎村、宮淵村、白板村等囲まれていた地域に新しく集落ができたので「巴町」と命名したのだということです。いずれにしても、巴町は 50 軒足らずの小さな町会ですが、松本城の西玄関、北松本駅を中心に町会員が皆一丸となり積極的に諸活動をして町の発展に活躍中です。



● 宮渕本村町会



宮渕本村公民館：松本市宮渕本村 5-18

町会役員が多くが隣組輪番制により、その負担の公平性と町会活動の活性化を図っています。

周囲には河川が集中し、洪水、震災等防災対策の強化が課題と言えます。

宮渕本村町会は 58 戸のこじんまりとした町会です。市の浄化センターがあり、共に環境保全連絡会を設け、施設周辺の環境保全はもとより、公園、河川等生活環境の美化に余念がありません。

子ども中心の伝統行事も住民支援により、世代間の交流を図り地域のつながりを深めています。



● 宮渕新橋町会



宮渕新橋公民館：松本市新橋 2 (松本市浄化センター)

る人など大勢が関わっていたようです。

現在の宮渕新橋町会は 78 戸です。春には白板地区の大運動会、夏には夕涼み大会、冬には三九郎など、小さな町ですが皆で支え合って楽しい町づくりをしています。

新橋の由来は信府統記によると、元禄 2 年 (1689 年) に初めてこの地に橋が架けられたと記されています。新橋の町は昔からあまり大きな町ではなかったようですが、善光寺街道と糸魚川街道の交差点で、両方の街道は大変賑わっていました。

犀川通船のあった頃 (明治期) は船着き場や牛馬の世話をする宿、飲食を提供する人たち、荷物を運搬する



●宮渚日向町会・宮渚東町会 【宮渚日向町会】



宮渚日向・宮渚東公民館：松本市宮渚 13-2

宮渚日向町会では、2ブロック8組、85世帯の居住者による隣組組織を主体に活動しています。毎年、実施している行事には、新年会、花見懇親会、敬老懇親会、文化祭、ボウリング大会やマレットゴルフ大会があります。

今年の文化祭は、日赤奉仕団の協力を得て町会役員中心の炊出しご飯の実習を行い、参加者に試食していただきました。

このように、自分たちの手でやれることは繰り返しやっていくことで、いざというときの対応につなげたいと考えています。



【宮渚東町会】

宮渚東町会は365世帯で白板地区の中では二番目に大きな町会ですが、近年の都市化の進行などにより、往時に比べ住民の連帯感などがやや薄れてきていることが、町会運営上の課題の一つとなっています。

このため、町会では住民の仲間の輪を広げるため、公民館で毎月一回、住民手作りのお菓子や漬物などを持ち寄ってお茶を飲む、「宮渚喫茶」を開いたり、敬老会、バスハイク、各種教室など親睦を深めるための様々な行事を催し、成果をあげてきています。

また最近では、万一の災害に備え、防災組織の整備、防災用品の確保炊き出し訓練の実施など、防災活動の充実に努めており、これらの活動を通じて地域の絆をより強いものにしていきたいと願っています。

●駒町町会・宮崎町町会 【駒町町会】



駒町・宮崎町公民館：松本市城西 1-4-16

駒町は戸数28戸と地区内で一番少ない世帯数ですが、それだけに大変気寄りの良い町会でまとまりもよく公民館を中心に会食会やマレットゴルフなどを楽しんでいます。

町内には町名の由来ともなった馬頭観世音が祀られており、春にはみんなでお祀りをしています。



貞享3年(1686年)の百姓一揆に首謀者の赦免状を携え江戸から伝達に走ったが、この辺りで乗馬が倒れ処刑に間に合わなかったという。馬の倒れた場所に馬頭観世音が奉祀され「駒町」として地名が残っている。
(馬頭観音前の説明板より)



【宮崎町町会】

城西町・駒町の西外れ、宮崎町との分去(わかされ)でそのままいけば、宮渚であるが三角点で東へ折り返して、市道1223号線(こまくさ通り)に出会うまでの真直ぐな道が旧宮崎町です。道の中ほどに城西病院があり、左側はずっと蟻ヶ崎高校の敷地であり、高いネットフェンスの中頃に懐かしい昔の女学校の正門のあった所で、城西町へとつづく女学校道が作られました。また、平成15年に建築された白板地区福祉ひろば、宮崎町・駒町公民館を使い、120戸の住民がお互いさまの精神で助け合い町内の絆づくりをしています。

●放光寺町会



放光寺公民館：松本市城山 23-11



寺の名前が町会名となっているのは旧松本市内では放光寺のみです。松本市史によると、江戸期には放光寺村とも呼ばれ、昭和初期には町名として使われたと石標に記されています。



放光寺は平安時代から続く古刹であり信濃屈指の厄除観音として名高いです。この地域には開松遺跡があり、松本藩の山城であった城山は明治の初め松本市第一号の公園となっており、今では一年を通して市民の憩いの場となっています。当町会はこうした歴史と文化に育まれた地として、地域の絆を拠り所に未来に向かって歩んでいます。

●蟻ヶ崎西町会



蟻ヶ崎西区公民館：松本市蟻ヶ崎 1丁目 6-32

蟻ヶ崎西町会は、松本城北西に位置し城山に近く坂の町です。古い家とアパート・マンションが混在しており、環境的には比較的落ち着いた風情です。70 弱の隣組と 8 地区で構成された 680 世帯の町です。『福祉のまちづくり宣言』を基本理念に据えて町会運営を実践しています。

☆介護保険に頼らない宅養老所・『愛ぶんぶん』の設立 10 周年記念式典『あいの会』1200 回記念を同時に蟻西公民館で行い、加藤さゆり長野県副知事はじめ松本市、社会福祉協議会など部長級の方々に、ご臨席賜り盛大に行うことができました。



☆『子育て支援・ありんこアクト』

就学前の子ども達が花岡史子代表を中心に毎週木曜日午前に蟻西公民館に集まり、楽しく遊んだあと代表手づくりのお菓子などでお茶会、楽しくママ同士歓談しています。

●城西町町会



城西町公民館：松本市城西 1-5-34

城西町は商業、工業者の多い町として発展してきました。当時は財力に恵まれ人口も大勢でした。児童もたくさんおり、青山様の御輿を担ぐのも大変な状態でした。

時代は流れ城西町も流出する人もおり、過疎化が心配されるほどでした。しかし、最近造成地、スマートコミュニティ・マンション等に 70 世帯が加わり、世帯数も 180 戸に増え、年 1 回蟻ヶ崎高校の庭で行われる運動会にも子どもたちの参加が多く見られ、新たな展望が開けています。



城西町の道祖神は、200 年近く前のものだと思われ、多くの道祖神が石像である中、他の旧城下のもの同様一刀彫り木像です。年 1 回 6 月 1 日の、道祖神祭典時に見ることが出来ます。普段は鍵の掛かった祠の中にいます。

白板地区の文化財① 白板探検隊記より



城西町道祖神

放光寺弁天池・薬師如来

弁天池は天和三年（一六八三）に松本城主水野氏が園遊地として掘削したと伝えられ、大正時代には小島を囲む池があった。この一帯は放光寺参道に近く、付近には「仁王門」の地名も残り、古くから放光寺との関係が深い地域でもある。参道沿いには薬師如来と伝えられる石像があり、近隣の数軒でお守りしている。「目の神様」の別名もある。



秋葉神社

松本秋葉神社は火防・火伏せの神として広く信仰され静岡県の秋葉大権現を分霊している。現在は塩竈神社の社有地となり塩竈神社、本町一丁目、本町二丁目にて清掃をしている。

その他伊勢町、大名町、西堀、新明町、二の丸町、東小路商栄会、常磐町、東町、今町二丁目ほか五町会が代参を行う。春の例祭は四月十八日に、秋の例祭は十月十八日に行われる。



犬甘城山

古くから山城が築かれ、南北朝時代からは、信濃国守護となった小笠原氏が重要な支城として治めた。今も残る空堀は、山城当時の構造物の跡。

江戸時代には、松本藩の管理下にあったが、天保十四年（一八四三）、城主戸田光庸が庶民の公園として開放、君民遊業の地とした。明治八年には松本市で最初の公園となる。風光明媚な園内には、松本市ゆかりの歌人による歌碑が数多く配置されている。



城山腰古墳群

（山王山・開き松古墳）

宮淵本村から城山腰の一带は、松本市域でも有名な古墳群がある。山王山と開き松古墳からは鏡や青が出土しており、市内では古墳時代の早い時期の古墳に属す。また発掘調査では、城山の尾根から女鳥羽川の河道が発見されており、尾根の隆起による大きな地殻変動があったことが知られている。



大正時代の開き松

泉小太郎の墓

松本藩の地誌「信府統記」によれば、大昔には湖だった松本平を、肥沃の大地にかえたと伝えられる泉小太郎は、鉢伏山で生まれ放光寺で育った。

小太郎伝説には諸説あるが、生育の地の伝承を持つ放光寺は、松本平の中心安曇方面を遠望する位置にある。そのふもとでは梓川・奈良井川・田川・鎖川などの河川が合流して淵をなす。小太郎は、母の犀龍と犀乗沢で出会い、山清路の巨石を砕いて千曲川に水を流したという。



城山水道

明治後期からの商工業の発展に伴う人口の急増により、市街地の水不足が深刻になった。

明治四十五年（一八七二）大火の教訓を生かし、島内・蛇原の水源をポンプアップして自然流下による市街地への供給を開始。大正十三年（一九二四）竣工。配水池と松本城天守（高さ二十九・四m）の高低差は九十メートルあり松本城天守の消火栓として水を自噴する水圧を有している。



城山稲荷神社

松本藩四代藩主の松平直政が尊崇したが、寛永十五年（一六三八）松江（島根県）に移封となったとき、同稲荷神社を分祀し、松江に迎えて守護神とした。現在は松江神社として多くの信仰を集めていることから出世稲荷といわれる。



城山公園

その昔天文年間深志の城主小笠原長時の家来、犬飼半左衛門が創築した山城跡と言われ、今でも本丸、二の丸、三の丸があり、大手は南方に面し、俗称『姥ヶ懐』と言われているあたりが、大手口だったと言われている。天保十四年（一八四三）時の城主戸田光庸が地元領民の慰めに、城山に桜・楓・桃・梅等を植えて公園として解放した。その後明治になって筑摩県よりの布達で城山を公園地に指定。桜の植樹などにより有数の桜の名所となる。



大正時代の城山公園にて



白板地区の文化財② 白板探検隊記より

城西町道祖神

生安寺の地蔵

昭和三十七年に現在地に移転した生安寺は、江戸時代には松本本町にあり、それ以前には松本城東北角にあったという。小笠原貞慶の城下町整備にあたって同寺を移転し、掘割を掘削したところ地蔵が現れたところから、同地は地蔵清水の地名となった。鎌倉時代初めの「文治」の年号が見える松本平最古の石仏。



市有墓地・陸軍墓地

入り口にある煉瓦の門柱は、東側の市営墓地への入り口。現在駐車場となっている西側には陸軍墓地があった。陸軍の戦死者を祭り近隣の聖域としてあり、松本平周辺の各地域から戦死者が埋葬された。門柱横には、浅井列の手による開道祈念碑がある。



馬頭観音

加助騒動にまつわる伝承が残る馬頭観音。貞享三年（一六八六）の安曇郡長尾組中菅村の元庄屋多田加助らによる加助騒動では、將軍家よりの赦免状を持って、水野家の重臣鈴木伊織が江戸から早馬で松本へ駆けつけたが、駒町のあたりで早馬の足が折れ、遂に処刑の時刻に間に合わなかったという伝説が残る。その時の馬の頭蓋骨が大甕に納め葬られているという。祭られている石像は優しい微笑みを湛え、唇にわずかに朱を含ませ、両手を合わせている姿。駒町の町名は、この伝説に因んで、明治になってからつけられた。



勢伊多賀神社

祭神伊弉那岐命、その子金山彦命。本宮は滋賀県多賀神社。創建年不詳。一説には宮淵村の名の由来となった神社とも言われており、近くから伊弉那岐命、金山彦命の名前が記された銅板が出土したことから由緒は古いと思われる。御神木の「ケヤキ」は樹齢五百年前後。



貞享義民塚

貞享騒動は貞享三年（一六八六）に松本で起こった近世初期最大規模の百姓一揆。昭和二十五年、丸ノ内中学校建設時人骨が発掘され、この地で処刑された安曇地方の多田加助等のものと判明。義民塚として祭っている。指導者の中菅村（現安曇野市三郷）の多田加助たちの年貢軽減を求めた直訴は、松本領の全域から一万人近い農民参加の代表的一揆であった。



杉田久女の墓

本名 久子 天才的才女流俳人 赤堀廉蔵の三女として明治二十三年鹿児島県に生まれる。昭和九年中村汀女などとともに「ホトトギス」の同人となる。昭和二十一年一月二十一日大宰府にて死去（享年五十七歳）。愛知県豊田市にある杉田家の墓に葬られる。昭和三十三年父廉蔵の出身赤堀家に分骨された。墓碑銘「久女の墓」は高浜虚子の筆による。



如意輪観音

安永六年（一七七七）七月に蟻ヶ崎の西村の女講中により建てられた。この観音は、名の如く車輪がどこまでも転がるように、意のままに現れ六道衆生の苦しみを取り去り、利益を与える菩薩といわれている。「むしは観音」ともよばれているが、それは、右手を頬に当てた姿に由来し、また、この姿は安産の姿勢とも信じられ、民間信仰の対象として、とくに女性に深く信仰されている。



鹽竈神社

奥州一の宮である鹽竈神社の分社。勸請年月日は不詳（江戸時代初期と推定される）。現在の本殿は、明治五年（一七八八）造立。古来より博学の神、交通安全、厄除け開運の神、武の神、寿命長久、安産守護の神として人々の崇拜も篤い。





蟻ヶ崎村道祖神

正麟寺境内五輪塔

小池甚之丞の供養塔と伝えられる。小笠原家臣の小池甚之丞は、小笠原長時・貞慶父子から馬の法を伝授され、その後この礼法は江戸時代の水島とト也へと伝えられた。これにより、江戸時代に庶民の間にも礼法が広まる。

長時の庶子とも伝えられる。五輪塔の製作年代は不明だが、長時ゆかりの正麟寺に因んで建立されたと思われる。



曹洞宗鳳来山正麟寺

(小笠原長時公菩提寺)

室町時代中期に草創され、古くは少林字と号した。天正十一年(一五八三)に長時公の菩提寺となり、長時公の法名正麟に因んで、正麟寺に改められる。

明治の廃仏毀釈で一時無住となるが復興し、永平寺直末となる。墓地には「男装の麗人」といわれ、満州国建国に尽力した川島芳子の墓がある。



川島芳子・浪速の墓

川島芳子は一九〇六年、清国肅親王の第十三王女として生まれ、大正三年九歳の時、旧松本藩士で満蒙で国士といわれた川島浪速の養女となり、浅間温泉に居を移し、松本高等女学校に入学。馬に乗って通学するなど市民の話題の的となった。その後戦前の中国大陸を舞台に男装の麗人といわれ満州国建立のために大活躍をし、勇名を馳せたが昭和二十三年二月、四十二歳の若さでその波乱の生涯を閉じた。



蟻ヶ崎高校

戦時色の濃い時代に4年間を過ごしました。品格と情操教育として「温故知新」温良貞淑の精神をしっかりと身につけさせられました。たまさかの勤労奉仕があるものの、勉強も運動も充分でき、友情を暖めながらの学生生活を送ることができました。物資不足のおり、薪や石炭を補うため美ヶ原麓の学有林に薪を背負いに行く行事が、年一、二回ありました。友達と励まし合って到着したときの達成感、少女の私たちに最高でした。勤労奉仕や一中(現深志高校)生徒との合同の稲刈りなど青春時代の思い出がいっぱい出たものです。



念仏供養碑

江戸時代蟻ヶ崎の西村、東村の村境にあったと思われる。この地が「三九郎場」と呼ばれていた。中央の碑は元文六年(一七四一)蟻ヶ崎村の庚申講の人々によって建立されたものである。

両側の碑は、善光寺別当大勳進等順に結縁するため、当地に結成された念仏講の人々が寛政三年・四年(一七九一・一七九二)に建立したもので「南無阿弥陀佛」の名号は等順の筆である。



新橋

江戸時代の元禄年間に糸魚川にむけた街道が開通し、奈良井川を渡るための橋が架けられたことから、この地が新橋と称されたという。

糸魚川街道の要衝にあたることにより、当時は町並みも大変にぎわった。その頃には船着場や牛馬の世話をする店などもあり、商いにたくさんの方が関わっていたという。



日向観音堂(連銭観音と馬頭観音)

明治の廃物毀釈の頃、この地へ集められたといわれている。本堂内に「本尊」馬頭観音「他」二体あり、横に馬力神の掛け軸がある。境内には九体の石仏がある。この九体の中に名馬「連銭観音」の像がある。「源平盛衰記」によると、義仲亡き後、巴御前が宮淵の日蔭茶屋に立ち寄ったと伝えられている。伝承ではそのとき乗っていたあし毛(連銭)馬がこの地で亡くなり、観音堂が造られたと言われている。



宮渕本村道祖神

この地には2つの小山(塚)があり、崖下に湧水、東南に水田が広がっていた。塚には縄文・弥生・古墳時代の遺跡が確認されている。本村二ツ塚古墳から長野県では珍しい銅鐸片が発見された。

道祖神は村落の入り口近くにあったものを国道十九号建設に伴い現在地に移設された。当地には和光稲荷神社等もあり古くからの居住地であった。当時の面影を知ることはできないが松本市の発展の歴史上、重要な地籍である。





城山公園の双体道祖

三峯神社

本社 埼玉県秩父市の三峯神社
当白板分社は明治十年代に個人の屋敷神として勧請された。三峯講として町内崇敬者により護持されてきた。昭和三十五年、白板南町会の守り神として町会運営となる。
爾来火災・盗難等が町内に無い。三峯信仰は関東・東北・信州等を中心として盛んだが、松本地方で特に多く見かけられる。例祭五月一日。



白板道祖神

寛政年間の双体石塔は小さかったため江戸時代の風習により他所へ持ち去られ、代わりに自然石で造られた重厚なこの道祖神は、天保十二年(一八四一)の銘がある。当時は旧道白板村北村の通称「やき並木」のほぼ中心地三叉路にあったが平成十二年県道拡幅に伴い現地へ移設。
道祖神祭りは毎年二月に行われる。



八幡神社

永正元年(一五〇四)に奈良井川の近くに建設されたが、永祿二年(一五五九)八月に奈良井川の洪水被害を受けて社殿をはじめ工作物の悉くを流失。その後も度重なる水難で次第に荒廃に帰したが、慶安四年(一六五二)にいたって現在地に移転新築された。白板宮本、中、南、今町、松榮町、折井町、巴町の産土神で、健康長寿・交通安全の神として崇敬されている。例大祭は五月第二土曜日



子育て地蔵堂

その昔、白板村旧道沿いに点在していた石仏像を昭和七年、現在地に堂を建立し安置。平成六年、老朽化に伴い再建。お堂内正面中央の地藏菩薩像は享保四年(一七一九)銘。
いつの頃からか子育て地蔵尊と言いつたえられ、安産守護・子の健やかな成長祈願にと人々から崇敬されている。
左側の如意輪観音像は、明和六年(一七六九)銘。右側の千手観音は、元和の銘がある。
お祭りは四月下旬に行われる。



大庄屋折井家

松本藩で村方支配のために組ごとに置かれた。藩からの布達や村々からの請願のとりまとめの他、用水・普請の入用割りや年貢の割付・取り立てなどの庶務にあたった。村役人よりも大きな権限が認められ、城下に設置された大庄屋会所へ詰めて、事務処理にあたった。大庄屋折井家は松本の城下町を取り囲むように広がる村々が属した庄内組の大庄屋に、元禄八年(一六九五)からあたり、代々役職を世襲しながら幕末までその職務にあたった。現在まで、職務に関わる文書を多く保存されていて、城下町周辺の村々の経済活動の様子などが分かる。



犀川通船乗船場跡

天保三年(一八三二)から明治三十五年(一九〇二)、篠ノ井線開通までの七十年間、松本―信州新町間に舟便があり賑わった。
明治の最盛期には三十艘以上の船が行き来し、上りは綱で船を引き五日、下りは七時間ほどで新町についた。
荷物は下りが、菜種・水油・たまり味噌。上りは塩・魚類・石油・麻など。女鳥羽川・田川の大改修工事で行時面の影はない。



明治中頃の乗船場

薬王山東昌寺

本尊 薬師如来 宗派 曹洞宗
開山 梅仙祝和尚(乾瑞寺第三世住職)
延宝六年、臨濟宗妙心寺乾瑞寺の末寺として白板宮本区に建立。明治十四年火災により堂宇消失し、当寺五世白準盤明尼の代に再建。平成十九年当寺第十四世全昌祖孝尼の代に伽藍立替工事竣工。松本十二番薬師代第三番霊場。
(みなもとは流れも清く 湧き出でて 行くえぞ遠き 春のかわみつ) 御詠化にもったわれている。



信濃鉄道と北松本駅車両基地跡

松本―大町間の鉄道敷設めざして明治四十五年(一九二二)三月、本社を北松本に設立。大正四年(一九一五)一月、北松本―豊科間を蒸気機関車による営業を開始。
大正五年、松本―信濃大町間(三五・一km)が全通。大正十五年電車運転に切り替わる。昭和十二年国鉄移管。
「しんてつ」の愛称が消える。昭和六十年(一九八五)車両基地の役割を終えた。



HP: 懐かしい駅の風景より

白板地区の子ども達を育む文教施設

開智小学校

開智^{かいち}学校（のちの松本市立開智小学校）は、廃仏毀釈で廃寺となった全久院の建物を仮校舎として

おり、1876年に全久院跡地に新規造営となった校舎が、現存する旧開智学校です。その後、松本開智尋常小学校となり、一校他部制を経て昭和38年に開智・田町両小学校を廃校し、新しく統合した開智小学校が開校しました。翌年、新校舎が完成し、現在の開智小学校となりました。

国宝松本城と国の重要文化財（昭和36年制定）旧開智学校に抱かれ、約650名の児童が通学しています。1898（明治31）年に制定された教育理念「愛・正・剛」を受け継ぎ、「愛」は「あいさつ」、「正」は「学力の向上」、「剛」は「清掃」と重点目標を決め、日々この精神を磨くために教育活動に取り組んでいます。

さらにはPTAや地域の皆さんの強力なご支援のもと、児童が安心して楽しく学習できる学校を目指しています。



出典：松本市公式HP



田川小学校

田川小学校は、大正14年4月1日に松本尋常小学校として開校し、昭和22年4月1日に松本市立田川小学校と改称し現在に至っています。平成27年度は大正14年から数えて90周年を迎えます。

90周年記念運動会・音楽会をはじめ、90周年記念事業が行われる予定であります。現在、児童数は256名です。各学年2学級で、特別支援学級を含め14学級です。開校2年目は21学級（児童数1142名）、また昭和22年は児童数が最多（1440名）という記録が残っておりますが、その当時と比べると5分の1弱の児童数です。しかし元気で明るい「田川っ子」はいつの時代も同じではないかと思えます。

学校教育目標を「愛（やさしく）正（ただしく）剛（たくましく）」とし、自己肯定感をもてる子どもの育成を目指し日々の教育活動を行っております。

平成26年度は国道19号線拡幅に伴う校庭工事があり、地域の皆様にご迷惑をおかけしました。狭くなった感じがしますが、子どもたちが大好きな「日あたり山」は遊びやすく改修され、また校庭のトラックは幅が広くなり、走りやすくなる予定です。9月には地域公開週間を実施しました。一週間全学級全授業を公開いたしました。このように田川小学校は開かれた学校を目指しておりますので、公開週間に限らずいつでもご来校いただき、元気な子供たちの姿や新しくなった校庭をご覧ください。



丸ノ内中学校

本校は、戦後の新制学校発足に伴い、昭和 23 年松本市中央部、二の丸地籍に開校されました。そして昭和 27 年には、市街を一望できる現在の地に、当時の文部省モデルスクールとして竣工して以来、60 余年に渡り輝かしい歴史を重ねてきました。

現在は、白板地区、田川地区、第一地区、第二地区の飯田町、中央地区、城北地区の蟻ヶ崎台ほか、通学距離による隣接地区より本年度は 278 名の生徒が通学しています。

自主精神を重んじ、学校教育目標を『自治の精神』とし、その象徴として校舎屋根に「自治の鐘」を配し、生徒会活動の開始時や卒業式など、今も節目に鳴らし、丸中生としての喜びと誇りを覚ましています。保護者・地域の皆様と共に、子どものよりよい成長を願い、「自治の精神」をさらに育み、三年の巣立ちの時、『丸中の生徒でよかった。丸中で学べてよかった』と思える学校づくりをさらに進めていきたいと思ひます。



松本中央幼稚園

本園は、昭和 24 年に本願寺松本別院が旧大名町に「本願寺保育園」として設立され、その後松本中央幼稚園となり、昭和 34 年に現在地に園舎新築移転しました。

平成 9 年には、園舎全面改築し、現在まで 3500 余名の卒園児を送り出しています。松本中央幼稚園の特色は、宗教的環境の中で情操教育を行うことによって、心身の発達を助長し心豊かな子どもを育てます。子どもたちは、小さな手にお念珠をかけて、仏様に心静かに掌を合わせます。「ののさま」を身近に感じ、仏様にいつも見守られ、目に見えない大きな力によって生かされていることを子どもたちは四季折々感じとっていきます。たくさんの出遇いを通してお互いにふれあい、お互いのよさに気づき認め合って、園児・保護者・職員が心豊かに「共に育ち合う」環境の中で子どもたちは「ありがとう」の心を大切に大きくなっています。



白板保育園

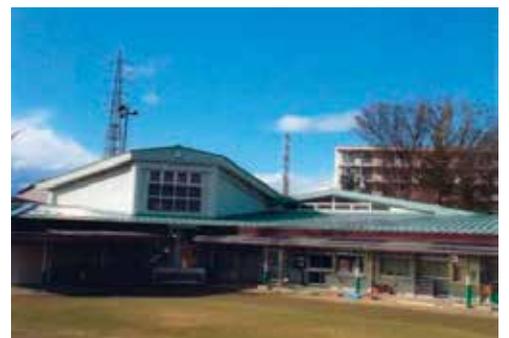
折井氏が寮友社として建設した後、白板地区で集会所として使用していたものを借り受け、昭和 15 年、白板保育園として開設。平成 5 年 3 月現在地に新築移転し、現在に至る。未満児保育・長時間保育を先駆けで行った園でもあり、現在も 0 才児から 5 才児の子が朝は 7 時 30 分から夕方 7 時まで、約 80 名の子ども達が活動しています。

「丈夫でたくましい子ども」、「物事に興味を持ち、友だちと積極的に関わって遊べる子ども」、「人の話を聞き取り、自分の考えや思いを言える子ども」という園目標に向け様々な活動をしています。

白板公園・勢伊多賀神社・ラベンダー公園・アルプス公園などへの散歩やリズム運動で、体を鍛え、クラスや異年齢の友だちとのあそびの中で思いやりを学び、絵本や紙芝居、語り聞かせをたくさん聞くことで、聞く力を育て、友だちとの話し合いの中で、自分の意見を言える子を育てています。

地域では、未就園児交流、城山老健施設交流、福祉ひろば交流に出向いたり、中学生、高校生、短大生など多数の実習生が訪れたり、関わってもらうことで認め合いができます。

街中の保育園でありながら、地域の方々に見守られ、素直で明るい子どもが多いのが印象的です。



蟻ヶ崎高等学校

長野県松本蟻ヶ崎高等学校は、明治 34 (1901) 年、松本高等女学校として創立され、百余年の歴史と伝統ある学校です。現在の校名は、昭和 23 (1948) 年に変更されました。生徒数約 930 名が通う学校です。

〈学校の重点目標〉

1. 文武両道を目指した時間の有効活用
2. 生徒の希望に沿った進路実現
3. 自主的な挨拶と清掃
4. 安心・安全な学校づくり



丸の内ビジネス 専門学校

丸の内ビジネス専門学校は 1948 年の創立。常に仕事に直結するスキルと心を育ててきた学校です。1988 年から、県内で真っ先に留学生

生を受け入れ、今では、世界の 14 カ国の学生が集う、小さな国際社会。国籍を問わず、母国に誇りを持ち、世界の人々に向かって、正々堂々と話すことができるそんな学生を育てていきたいと思えます。

ビジネス科、OA実務科、国際関係学科（国際教養コース、日本語コース）等の科目があります。



学校法人 未来学舎 松本情報工科専門学校

松本情報工科専門学校は、情報システム学科と自動車整備学科で学び、情報処理技術者、自動車整備士を目指します。確実性・堅実性・先進性において優れた素晴らしい仕事です。

共に考え、悩み、そして喜ぶ。
学生ひとりひとりと丁寧に向き合い、
きめ細かく、夢の実現をサポートする。
「とことん、いっしょに。」
いままでも、そしてこれからも、
未来学舎の掲げる基本理念です。



学校法人 外語学園 松本調理師製菓師専門学校

松本調理師製菓師専門学校は、長野県下唯一の調理師と製菓衛生師の養成課程をもち、調理と製菓を総合的に勉強できる学校です。

1975 年創立から 40 年、卒業生も三千数百人を数え、レストラン・ホテル・割烹料理店、病院・老健施設等の集団給食施設、和・洋菓子店、製パン店で、また、自分の店を開くなど、業界で多勢が活躍しています。

より高度な知識と技術を身につけ、多様化した社会のニーズ「に対応できるセンスを持ち合わせた調理師・製菓衛生師としてのスタートに役立ちたいと考えております。



白板地区 公民館

地区公民館は白板地区皆さんの生涯学習（遊びも学習）の場づくりをしています。学習をとおして大勢の皆さんが交流を深め、絆を深め地域づくりの活性化が生まれたらいいなと考えます。館には皆さんの学習をサポートする5部門の委員さんがいますので紹介します。

- 館報編集委員会……市の公民館報の地区版「常念通り」で地域の情報発信をしています
- 文化委員会……文化祭、まつり、節句などの事業をとおして交流の場づくりをしています
- 体育委員会……スポーツをとおしてみなさんの健康づくりについて考えています
- 図書委員会……中央図書館の蔵書からみなさんの読みたい本の配本をしています
- 運営委員会……5部門の長と地域の有識者で構成され、公民館講座など館の運営を担当しています

地区公民館の今昔



昭和63年7月30日
第1号北部版館報より

北部公民館から



北部公民館

⇒

白板地区公民館へ



白板地区公民館

昭和57年に安原・城北・白板の3地区の公民館として、北部公民館が誕生、開館しました。その後、安原、城北が地区公民館として独立し、白板地区の公民館として利用されてきました。平成27年4月10日、10年来切望し待ち望んだ「白板地区公民館」が“常念通り”城西町に移設・新築され、開館いたしました。

～北部公民館の講座より(一部)～



健康寿命延伸に 歩け、あるけ



楽しかった節句の祝い やまぼうしの演奏



年末恒例のしめなわづくり

～白板地区公民館 誕生・行事・講座より～



テープカット

松本市白板地区公民館 竣工式



入口看板



玄関前の
こいのぼり



五月人形



七夕飾り



星に願いを……

市長 あいさつ



いけ花講座



上高地



青柳切大切通し



善光寺街



上高地(大正池)

健康寿命延伸講座 歩く・観る・学ぶ



健康寿命延伸講座 スポーツ吹矢



森林鉄道乗ったよ



赤沢美林 水遊び楽しいな
育成会共催事業 トムソーヤクラブ



天までとどけえ～
1・2の3



世界に一つだけのマイスプーン

丸ノ内スポーツクラブ共催事業
公民館に泊まる



真剣に講師の説明を聞くこども達



やすりでスプーンツルツルに

白板地区 福祉ひろば

福祉ひろばは白板地区のみんなのふれあいの場です。

ひろばの事業は、「地区福祉ひろば事業推進協議会」企画委員会の方々がいろいろな立場から意見を持寄り、公民館や連合町会と連携をとりながら、みんながいきいきと過ごせるように福祉の拠点として事業を進めています。

企画委員会は、4つのブロックから町会長、民協役員、健康づくり推進員から選出され、行政からも福祉計画課、担当保健師、中央包括支援センターの職員、公民館長、地域づくりセンター長、ひろばコーディネーターで組織されています。



ハッピー・キッズでみんな楽しく、お母さん笑顔



お花見ウォーク、ワイワイ！



中学生との交流会



らくご
落語に酔った顔・かお・カオ・・・



白坂地区の ^{かなめ} 地域づくりの要各種団体

白坂地区町会連合会

白坂 14 町会連合会は、南は白板橋のたもとから北はアルプス公園の真中あたりまでの奈良井川に沿った細長い地形で、白板南・白板中・白板宮本・折井町・巴町・城西町・宮渕本村・宮渕新橋・宮渕日向・宮渕東・駒町・宮崎町・蟻ヶ崎西・放光寺の 14 町会で組織されています。各町会長さん方はいろいろな役職を担当制で受け持ち、毎月 1 回の定例会を持ち、行政からの事務連絡や、各町会の問題点などを検討しながら白板地区の活性化に力を注いでいます。



毎月 1 回の定例会で、行政からの事務連絡や、各町会の問題など、白板地区を常に考えている町会長さん。



地区行事も率先参加で引っぱりまます。
(白板体協結団式)

= 町会長さんの役割分担 =

- 地区町会連合会 … 会長 1 名・副会長 2 名・会計 1 名・監事 2 名
- 社会福祉協議会 … 支会長 1 名・副支会長 2 名・理事 1 名
会計 1 名・監事 1 名
- 福祉ひろば
- 事業推進協議会 … 会長 1 名・副会長 1 名・監事 1 名
- 企画委員 … 1・2・3・4 ブロックより各 1 名
- 地区子ども会育成会 … 会長 1 名・副会長 1 名
- 地区体育協会 … 会長 1 名 (あとの全員が副会長)
- 衛生協議会 … 担当 1 名
- 明るい選挙推進委員 … 地区まとめ 1 名・担当 2 名
- 緑化推進委員 … 担当 1 名
- 国道推進委員 … 委員 2 名
- 地区公民館担当 … 1 名



研修旅行で ほんっと一息の町会長さん

白坂地区子ども会育成会

これまで白板地区子ども会育成会では、七夕人形作り、木曾赤沢美林でのトムソーヤクラブの一日参加、やきいも大会、やししようま作りを実施してきました。

今後、子ども会育成会の行事を継続する上で大切なことを、やきいも大会を例に考えてみたいと思います。

やきいも大会は広い場所と大量の薪を必要とするため、長い準備期間が必要です。これまで 18 回続いたやきいも大会も、平成 26 年度は 382 名の参加を得て大盛況のうちに終了できました。このようなやきいも大会が行われている地区は、白板地区以外にないと思います。

そこで大切なことは、つつい大人が手を出してしまいがちな作業に、子どもたち自らが手をだして、『自分たちでやった』といった達成感や、満足感を味わえるように配慮することではないかと考えています。

このような観点から、育成会行事については、子どもたちの記憶に残るような体験をさせてやれるようなものに見直ししていくことが必要であろうと思います。そのときに中核施設としての新公民館の果たす役割は大きいと考えています。



真剣な目線… やししようまづくり



夏休みの 1 日 赤沢美林の野外研修



大人気のやきいも大会 お母さんありがとう

白板地区社会福祉協議会

白板地区社協は、白板地区 14 町会長、民生委員・児童委員・主任児童委員（16名）、日赤奉仕団分団長、健康づくり推進委員会会長、食生活改善推進協議会会長、福祉ひろば職員 2 名の皆さんで構成され、白板地区内、巴町はじめ 14 町会 2610 世帯の皆様の身近な地域での住民相互の助け合い、支え合い活動をとおして地域の絆づくりを進めているところです。

敬老の日行事、ふれあい会食会、老人会を主とした茶話会、ひろばを中心とした交流事業、地区公民館・町内公民館を利用した事業等福祉活動推進事業にそれぞれに十分ではありませんが助成を行っています。



白板地区が防災と福祉のまちづくり ⇒ **安全で安心して暮らせる町（地域）、住んで良かった町づくり（地域づくり）**を皆さま方のご理解、ご協力をいただき地域福祉活動を推進したいと思っています。

白板地区民生委員・児童委員協議会

子育て、老後や介護、障がい等をお持ちの方々とともに安全、安心した市民生活をつづけるため、あらゆる相談に応じ地域と行政をつなぐ「かけ橋」が民生委員です。

地区内には 16 人が町会単位に配置されていて、町会・公民館・福祉ひろば等と連携し毎月の定例会や研修、地域行事に参加しています。

会の活動は災害、虐待、孤立、認知症の徘徊、介護不安、要援護者の見守りなどの問題解決に対応しています。地区民生委員協議会は、和と輪をモットーに、大切に、楽しく、社会貢献を目的に地域の団体、機関と共に地域づくりを目指しています。



健康づくり推進員

白板地区には、各町会より選ばれた 30 人の健康づくり推進員がいます。まずは推進員が健康でいきいき活動する事を目指し、保健師による健康講座を受け、体力測定・料理講習・リンパマッサージ・福祉施設の見学・ストレッチ等について学び、それを各町会に持ち帰り、広めていく事をしています。

ひろば事業のふれあい健康教室やひろばまつり、子育て支援のハッピー・キッズにも協力しています。



研修に励むスタッフ



子どもたちの健全育成を願って

大手防犯協会・北部防犯協会・渚防犯協会

白板地区では警察署の統括管理のもと白板3町会が渚防犯に、放光寺・蟻西が北部防犯に、残る9町会が大手防犯にと分かれています。

白板地区として一括した管理ができない不安はありますが、会員の皆さま方が連携をとり、地域の防犯対策等の活動をしています。

《目 標》

地域における安全と平穏を確保して「安全で安心して暮らせる街」にするべく、会員を增強し、研修を重ね、町会の自主防犯体制の強化推進を図ります。

交通安全協会今町地区支部・渚地区支部

春夏秋冬の安全週間があり、特に12月は1か月間もあります。各町会の役員さんは大変です。

小学生の通学時安全見守り、お年寄りの啓発活動、家庭訪問、小学校と幼稚園・保育園の交通安全教室、松本市内のイベント、アメ市、放光寺厄除け、松本ぼんぼん、楽市楽座、そば祭り、市民祭等たくさんの行事に出動します。昨年からはお城の周りを走る開智小学校のマラソン大会にも出動しています。



地域の安全を第一に… 警邏に励む白板地区安全協会のみなさん

白板地区食生活改善推進協議会

「私たちの健康は私達の手で」(健康宣言)

「活動の柱」(高血圧予防に関連して)

- 減塩活動 ・おいしくよく味わって食べる
・調理実習でうす味を体験し、家庭での参考にする
- 野菜をもっと食べよう
・地元のおいしい野菜を多く使った料理の紹介
- 白板地区健康づくり推進員、公民館活動、地域活動、調理実習等を通してバランスの取れた食事の紹介



男性料理教室指導



子どもの夕食作り



街コンで昼食作り

白板地区日赤奉仕団

白板地区日赤奉仕団は、しっかり地域に根ざし、公民館との結びつきも深く、地域の方々と共に災害時に備えての訓練をしています。東日本大震災の時には、石巻、栄村へと炊き出しに行き、また今回の白馬方面の地震災害へも行く準備中です。日赤奉仕団がいることで地域の方が安心して頂けるよう、イザ!!という時のための訓練をさらに心がけたいと思います。



石の巻・栄村へいち早く炊き出しに出勤した白板地区日赤奉仕団

松本市消防団第2分団

第2分団は松本城を管内に持つ市の中心に有る分団です。例年20回ほどの非常出動があり他の分団より多く出動回数があります。又出動の内訳は火災、水防、警戒、行方不明者捜索などですが、豪雪時の消火栓の掘り出し、震災時の活動もしてきました。そのため安全に活動するために日夜、準備と訓練も怠らず行っています。いまは少子化という事もあり、団員が減少傾向になっています。それ故に各町会で団員の推薦をお願いしたいと思っています。これからも地域防災の要として活動していきます。



城西1丁目（ほっともつと隣り）にある第2分団詰所

育成会「やきいも大会」に出動。消防車に試乗する子どもたち

以上の団体の他にも衛生協議会・明るい選挙推進委員・緑化推進委員・国道推進委員などがあります。

主催 白坂地区体育協・北部公民館体育委員会
白坂地区福祉ひろば・各町会体育部
丸ノ内スポーツクラブ

組
町会各位
平成26年度 **白板地区体協年間行事計画**

5月16日(日) **第14回大運動会** 雨天の備前 5月25日(日)
新緑グラウンド

6月15日(日) **5日卓球大会**

6月22日(日) **マレットゴルフ大会**
アルプス公園

7月12日(土) **レクリエーションフェスティバル**
丸中体育部
7月20日(日) **ソフトバレーボール大会**
丸中体育部

8月 9日(土) **公民館に泊まろう なつまつりだよ!**
丸中公民館

8月31日(土) **ゲートボール大会**

9月 6日(土) **ちびっ子と遊ぼう**
丸中体育部

10月12日(日) **松本市民祭**
新緑グラウンド・ツツノ・ムービー・ゴール・ゲートボール・卓球
GG 10月18日(土)

11月 2日(土) **市長杯争奪球技大会**
11月22日(土) **酒井先生の健康ウォーキング教室**
新緑グラウンド立派

野球大会は嬉高グラウンド空日に行います

12月20日(土) **クリスマス会** ユークリオンとスポーツ広場
丸中公民館

3月 8日(日) **卓球大会**
丸中体育部

行事予定の詳細は、その都度お知らせしますので皆さんのご参加をお願ひいたします。

白板地区体育協会

白板地区体育協会は、担当町会長が会長を務め、あとの町会長全員が副会長、町会体育部長 14 名が理事となり組織されています。執行部として理事長体制を敷き、任期のない理事長 1 名、副理事長 12 名が活動しています。左図のように公民館、福祉ひろば、丸ノ内スポーツクラブとタイアップして年間の行事を進めています。

若手中心の「白板体協」は地区の青年部的存在で、白板地区に「元気」を発信しています。また、いろいろなイベントにお手伝いもしています。



H26 年度 新調のユニホームで市民体育祭に臨む白板地区のホープたち

総合型地域スポーツクラブ 丸ノ内スポーツクラブ

白板地区連合町会より支援をいただき、スポーツをとおして地域のみなさんの健康づくりに、誰もが楽しめるスポーツ環境をつくろうと「いつでも・どこでも・だれもが・いつまでも」の理念のもと、平成 20 年に総合型地域スポーツクラブ「丸ノ内スポーツクラブ」が誕生しました。年間イベントの他に丸ノ内中学校を拠点に毎週夜間いくつかのサークルがスポーツを楽しんでいます。近年は小学校・中学校の学年親子レクリエーションの依頼も増えています。

お問い合わせ…35-7740 白板地区公民館へ



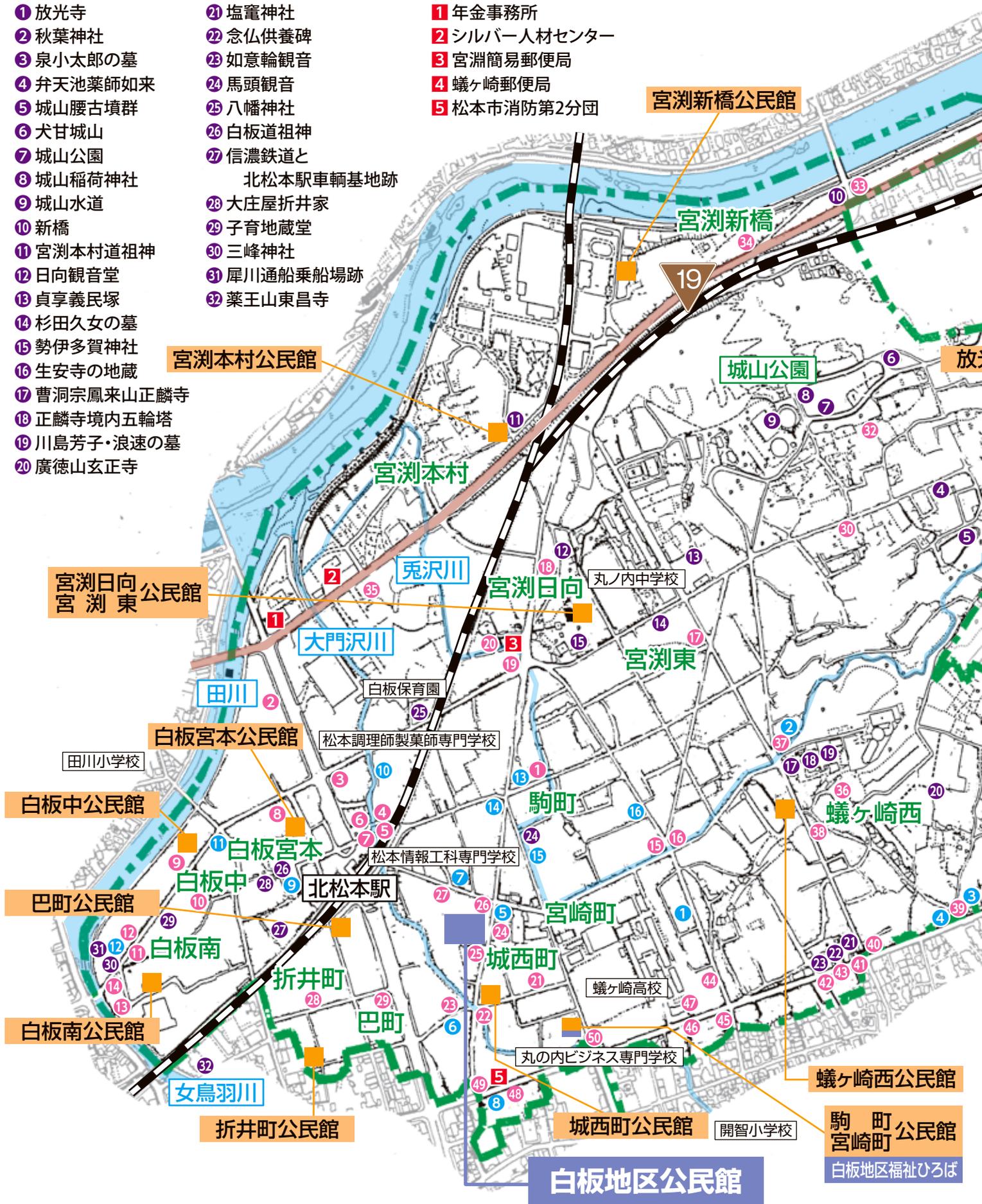
町会長さんも大勢参加の定期総会

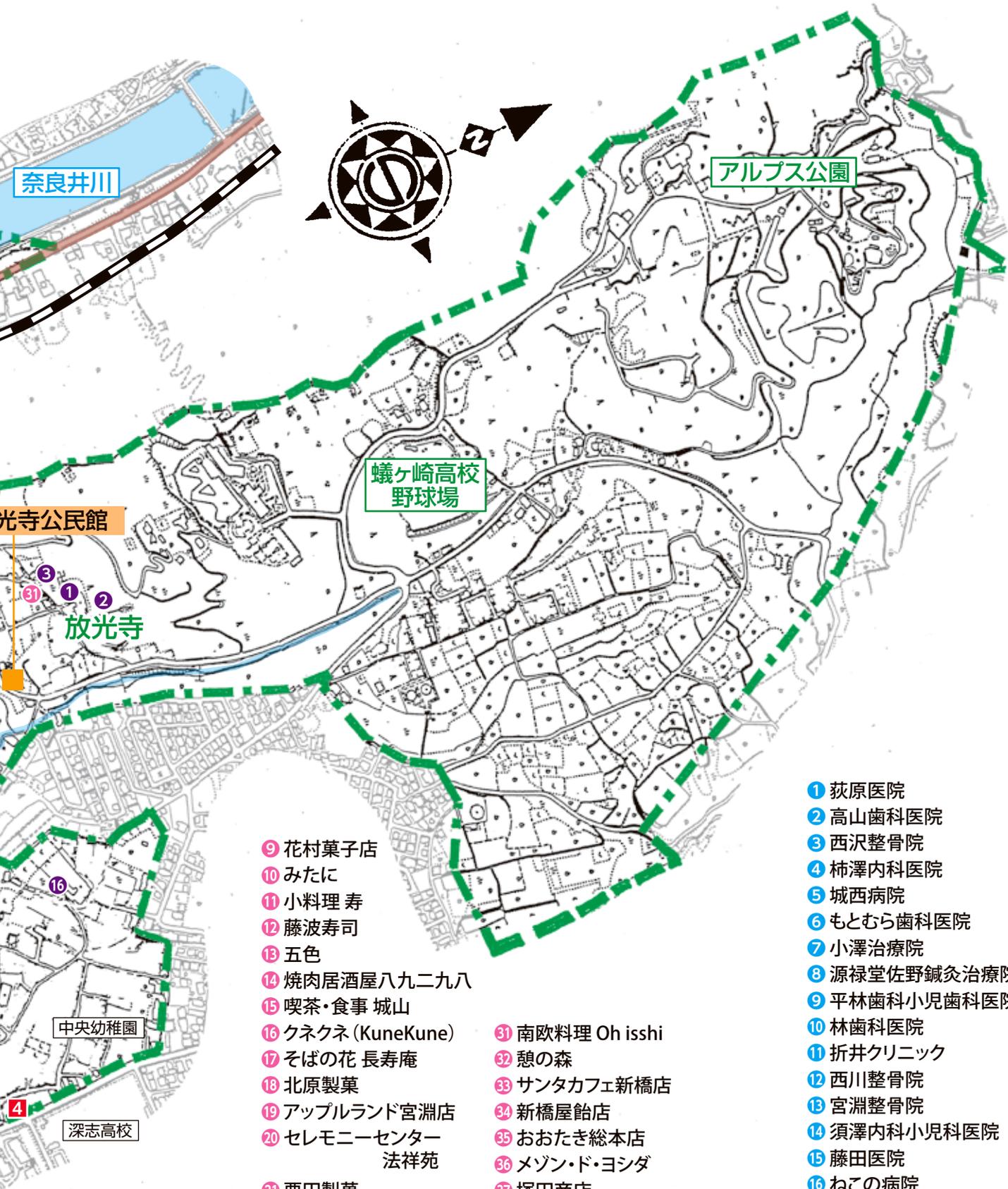
見どころいっぱい!!
**白板地区 おすすめ
ウォーキング
マップ**

1 南の水辺コース
2 丸ノ内公園コース
3 丸ノ内公園コース
4 丸ノ内公園コース
5 アルプス公園コース
6 アルプス公園コース

白板地区 インフォメーション

- ① 放光寺
- ② 秋葉神社
- ③ 泉小太郎の墓
- ④ 弁天池薬師如来
- ⑤ 城山腰古墳群
- ⑥ 犬甘城山
- ⑦ 城山公園
- ⑧ 城山稲荷神社
- ⑨ 城山水道
- ⑩ 新橋
- ⑪ 宮渕本村道祖神
- ⑫ 日向観音堂
- ⑬ 貞享義民塚
- ⑭ 杉田久女の墓
- ⑮ 勢伊多賀神社
- ⑯ 生安寺の地蔵
- ⑰ 曹洞宗鳳来山正麟寺
- ⑱ 正麟寺境内五輪塔
- ⑲ 川島芳子・浪速の墓
- ⑳ 廣徳山玄正寺
- ㉑ 塩竈神社
- ㉒ 念仏供養碑
- ㉓ 如意輪観音
- ㉔ 馬頭観音
- ㉕ 八幡神社
- ㉖ 白板道祖神
- ㉗ 信濃鉄道と
北松本駅車輛基地跡
- ㉘ 大庄屋折井家
- ㉙ 子育て地蔵堂
- ㉚ 三峰神社
- ㉛ 犀川通船乗船場跡
- ㉜ 薬王山東昌寺
- ① 年金事務所
- ② シルバー人材センター
- ③ 宮渕簡易郵便局
- ④ 蟻ヶ崎郵便局
- ⑤ 松本市消防第2分団





- ① セブンイレブン宮淵店
- ② セブンイレブン白板店
- ③ ファミリーマート
北松本店
- ④ つる木の米屋
- ⑤ 相馬わさび店
- ⑥ 喫茶 雁
- ⑦ キッチン きこり
- ⑧ 純喫茶 ピーナッツ

- ⑨ 花村菓子店
- ⑩ みたに
- ⑪ 小料理 寿
- ⑫ 藤波寿司
- ⑬ 五色
- ⑭ 焼肉居酒屋八九二九八
- ⑮ 喫茶・食事 城山
- ⑯ クネクネ (KuneKune)
- ⑰ そばの花 長寿庵
- ⑱ 北原製菓
- ⑲ アップルランド宮淵店
- ⑳ セレモニーセンター
法祥苑
- ㉑ 栗田製菓
- ㉒ 橋本青果店
- ㉓ 蕎麦 齋藤
- ㉔ かつ玄 (弁当)
- ㉕ 北山養魚所
- ㉖ 小林魚店
- ㉗ 大和屋精肉店
- ㉘ 清滝商店
- ㉙ えにしホール
- ㉚ 山田商店

- ㉛ 南欧料理 Oh isshi
- ㉜ 憩の森
- ㉝ サンタカフェ新橋店
- ㉞ 新橋屋餡店
- ㉟ おおたき総本店
- ㊱ メゾン・ド・ヨシダ
- ㊲ 塚田商店
- ㊳ 中国料理 唐坊
- ㊴ 石原商店
- ㊵ 清水屋菓子店
- ㊶ 郷津商店
- ㊷ 茶藍 (和食)
- ㊸ ダイニングキッチン
はなぐるま
- ㊹ Patisserie ICHiE
- ㊺ 吉沢酒店

- ① 荻原医院
- ② 高山歯科医院
- ③ 西沢整骨院
- ④ 柿澤内科医院
- ⑤ 城西病院
- ⑥ もとむら歯科医院
- ⑦ 小澤治療院
- ⑧ 源禄堂佐野鍼灸治療院
- ⑨ 平林歯科小児歯科医院
- ⑩ 林歯科医院
- ⑪ 折井クリニック
- ⑫ 西川整骨院
- ⑬ 宮淵整骨院
- ⑭ 須澤内科小児科医院
- ⑮ 藤田医院
- ⑯ ねこの病院

- ④⑥ キッチンモーリ
- ④⑦ ローソン蟻ヶ崎店
- ④⑧ レストランシアトル
- ④⑨ ほっともつと松本城西店
- ④⑩ 宮下清志商店



編集後記

本誌編纂の知らせがあったのが平成26年12月9日の公民館報編集委員会の席でのことでした。

松本35地区公民館の先頭をきって波田、本郷と我が白板地区の公民館が当たることになりました。それも白板地区は新公民館竣工に合わせて今年度中の発行ということになりました。期間が短い上に見本もなく手探り状態の中、編集方針の検討、作業メンバーの選定等慌ただしいスタートとなりました。

いま松本市では地域づくりセンターを発足させ、地域の活性化に着手しましたが、その為には先ず「住民が自分の地域のことをよく知ろう」から始めようとの冊子づくりをすることにしました。地域の活性化のお手伝いになれば幸いです。

8カ月足らずという短い期間ではありましたが、ここに地域の皆さまにお届けすることができました。

この冊子編纂に当たり、取材、情報提供取りまとめ作業など地区町会連合会はじめ、多くの方々の心温まる献身的なご協力を頂きましたことに対して、心より感謝と御礼を申し上げます。

平成27年8月
(地域テキスト編集委員会)

編集委員

後藤 隆一	藤森 昭三	内藤 哲夫	鈴木 岳夫	筒井 秀子	小林 佳世子
岸 富士一	平岡 武	山本 英男	天野 潔	中田 靖子	古市 昭太郎